

学 校 経 営 予 算 事 業 計 画 書

(単位：千円)

学校名	岡山県立岡山朝日高等学校	予算枠区分	基本 ・ 重点 ・ <u>プレゼン</u>
事業名	ASAHI HEADS Project ～科学を学び、体験し、交流するプロジェクト～	予算額	2,000 千円
事業の必要性・テーマ	<p>社会的背景：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 グローバル化，科学技術の発展等の社会の進展により知識基盤社会が到来し，社会で求められる知識・技能も多様化，高度化している。 2 理数や外国語等の質の高い教育により，次世代を担う科学技術系人材や国際的に活躍できる人材を，高校段階から育成することが必要である。 3 これからの高校では，時代の進展や社会のニーズを踏まえ，科学に対する視野を広げ，幅広い教養を持つ生徒を育てる教育が求められている。 <p>朝日に対する期待，朝日が成すべきこと：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒に高い志を抱かせることによってその潜在的な能力を最大限に発揮させ，社会で活躍・貢献できる有為な人材を育成する学校。 2 日本の現代物理学の父とされる仁科芳雄博士をはじめとして，多くの優秀な科学者を輩出している学校であり，将来の日本の科学技術を牽引する人材の発掘や育成をすることが期待されている。 3 将来の優秀な科学者となるために欠かせない国際人としての素養である，英語力やプレゼンテーション能力の育成にも力を注がなければならない。 <p>中心的課題：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 科学に対する視野を広げ，幅広い教養を持つ生徒を育てる。 2 理数に強い関心や高い資質を有する生徒の科学力を高め，将来社会に貢献できる国際的な研究者としての素養を身につけさせる。国際科学オリンピックへの出場を目標とする。 3 学校内外における生徒間のネットワーク形成をサポートし，互いに切磋琢磨し武者修行する中で生徒の知・徳の成長を促す。 		
事業の概要・進め方	<p>事業の概要：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大学等との連携 <p>大阪大学との連携 最先端の科学技術に関する講義 講師：大阪大学名誉教授 菅 滋正氏 内容：英語による科学の講義</p> <p>東京大学，京都大学との連携 幅広い教養を身につけるための講演(生徒対象，保護者対象，教員研修) 講師：東京大学 副学長 佐藤 慎一氏 内容：大学での学びについて 講師：東京大学大学院 総合文化研究科教授 船曳 建夫氏 内容：大学・社会で求められる教養について 講師：京都大学 高等教育研究開発推進センター准教授 溝上 慎一氏 内容：学びを科学する</p> <p>岡山大学等との連携 (例) 実験教室(化学・物理・生物)の実施 その他の研究機関等との連携(例) SPring-8 見学，美星天文台実習，SPP への参加</p> 2 国際人としての素養の育成 <p>オーストラリアの高校生との交流 テレビ会議を活用した，科学に関する情報交換 小中学生のための実験・観察教室の開催 おかやま教育の日関連行事として実施 卒業生との座談会 2009年物理オリンピックメキシコ大会銀メダルの難波 博之君を始め諸先輩に学ぶ会の開催 プレゼン校内発表会の開催 英語によるプレゼンテーションを含む，発表の場を設けプレゼンテーション力を育成</p> <p>事業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 企画運営の核となる HEADS Project を組織し，大学等との連絡調整や校内の関係部署との連携を図る。 2 全校生徒を対象とする講演会により，幅広い教養を身につけさせる。 3 意欲的な生徒集団としての Advanced Science Team(AST)を組織し，諸事業への積極的な取り組みを支援する。 		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 小中学生対象の実験・観察教室に参加した子どもたちが，科学のおもしろさや楽しさを味わうことができたか。 参加した小中学生にアンケートを実施するなどして，理解度や満足度をはかる。 企画・運営を行った本校生徒が，行事をとおして満足感や達成感を得られたか。 生徒に自己評価をさせ，満足度や達成感を調査する。 2 科学オリンピック国内予選への参加者数や入賞者数により達成度をはかる。 数学及び物理オリンピック予選参加者数，20名を目指す。 岡山県教育庁指導課主催「科学オリンピックへの道」セミナーへも多数参加させる。 3 大学等との連携事業について，参加生徒の理数に対する興味や知識が増したか。 ア 各事業の目的がわかるようなチェックシートを作成し，参加者に回答させる。 意欲的に取り組めたか，対象に関する理解は深まったかなど。 イ 講演後，生徒に感想を書かせたり，講師を囲んだ話し合いを持ったりする。 内容を理解し，知的刺激を受けたか。活発な話し合いができたか。 ウ 講師への聞き取りを行う。 4 プレゼン校内発表会における発表について，正確でわかりやすい内容となっていたか。オーディエンスは正しく発表を評価できたか。 菅滋正大阪大学名誉教授などの審査員によって，専門的客観的な指導講評をしてもらう。 		